



上鷺宮

「自然といのちを守る学校」

<http://nk-kamisagi-e.a.la9.jp/>

開校39年

No.435

平成29年度

学校だより 12月号

中野区立上鷺宮小学校

校長 堀 聡明

TEL 3926-6381

インクルーシブ教育

校長 堀 聡明

先日の学芸会には多くの保護者の方、地域の方にご来校いただきありがとうございます。自分の役に成りきって表現した子供たちに、励ましの拍手をいただきました。大きな自信につながったことと思います。これからの教育活動にもご理解ご協力をお願いします。

さて、特別支援教育という言葉が世に出て久しいのですが、私は特別支援教育のキー概念である「インクルーシブ教育＝包容する教育」に取り組むことが必要と考えます。このインクルーシブ教育とは、一言で言えば、「みんな違ってみんないい」ということです。インクルーシブ教育は障害のある子を含め、これが私たちの世界なのだということを知り、その構成員のだれもがかけがえの存在で、それぞれに大切だという実感できるようにしていくことです。

人は、誰でも、うっかりすると<私たちとあなたたち>というように分けてしまうものです。障害のある人、ない人というようにこちら岸とあちら岸に分けてしまいがちです。しかし、実は大きな『人』という視野で見れば、こちら岸とあちら岸はつながっているのです。このように考えると実はインクルーシブ教育は障害を念頭においたも

のだけでなく、男性・女性、人種、宗教、感じ方などの人の違いについてもあてはまります。以前聞いた講演会では、このことを「インクルージョン」と呼んでいました。

「インクルージョン」とは、含んでいる、包含しているという意味で、包含されているのは私であり、あなたなのです。つまり、多様な構成員のいるこの世界を直視した言葉で、その多様性を見つめ、自分と対岸にいると思われる人の立場を理解して、その人たちの幸せも自分の幸せと同時に追求していく世界を意味していて、そこに一歩ずつ近づいていくのがインクルーシブ教育なのです。

少し、注意する点があります。このインクルーシブ教育を進めていく途中で、間違っただ道に入り込みやすい点です。こちら岸にいる自分からみて、向う岸にいる人は(かわいそう)だから、情けをかけてあげるという気持ちで考えることです。これは自分が上位に立って、上から目線で考えています。インクルージョンを理解している人と言動は似ていますが、まったく正反対な考え方からの発想になってしまいます。

12月4日から10日までの人権週間にあたり、このことを子どもたちに伝えていきます。

12月の生活目標 気持ちの良い言葉づかいをしよう